Symbolon
シンボロン

知っておきたいキリスト教のことば （101）

象徴 しょうちょう

聖書を読んでいて、意味がわからないと感じることはないでしょうか。たとえばある箇所に、イエス様が汚れた霊を追い出す物語があります。そのとき汚れた霊は豚の中に入り込み、豚ごと湖の中に飛び込みます。その豚の数は、2000 頭であったと書かれています。

普通に考えると残酷な物語ですが、当時の社会において「豚」という言葉がどのような意味で使われていたのかを知ると、「そういうことか」と理解できます。（豚の意味は、その項目が出て来たときに説明します）

このように、あるものの代わりにそれを表象するものを「象徴」といいます。たとえば聖公会では赤・緑・白・紫という祭色を用いて、今がどんな期節なのかを示します。その色が象徴する意味を意識しながら、礼拝をおこないます。

他にも聖書には、多くの「象徴」がでてきます。犬や豚、羊といった動物、いちじくやオリーブ、ぶどうといった植物、塩やパン種、また荒れ野といった場所も、その言葉が本来持つ意味以外のことを伝えているのです。

3 や 5、7 や 12 や 40 といった数字も、象徴ということができます。イエス様はペトロに「あなたは 7 の 70 倍赦しなさい」と言われていますが、これはなにも 490 回だけ赦すように言われているわけではありません。7 も 70 も完全数なので、「何度でも、際限なく」赦しなさいという意味になるのです。

このような隠された意味を知りながら聖書を読むと、もっと聖書の言葉が身近に感じていくと思います。このコーナーを始めた意味もそこにあります。さらに深く知りたいときは、ぜひお近くの教会の牧師に聞いてください。

次回は「昇天」です。お楽しみに。

「ゲラサの豚」
オットー三世の福音書より
（1000 年頃）

イエスがお許しになったので、汚れた霊どもは出て、豚の中に入った。すると、二千匹ほどの豚の群れが崖を下って湖になだれ込み、湖の中で次々とおぼれ死んだ。

（マルコによる福音書 5 章 13 節）